

教育委員会だより

水と緑に親しむ親子の集い 溪流釣りを満喫

町教育委員会主催の「第15回水と緑に親しむ集い」が6月30日（土）に実施されました。多少風があつたものの上ノ国ダムに親子、スタッフなど百十名の参加がありました。昨年に引き続き、江差町からも親子の参加があり、過去最高の参加者となりました。

初めに、函館建設管理部、森林管理署の職員から、ダムの役割について話があり、その後、森林インストラクターの澤谷敦さんからシロツメクサの名前の由来、自然を守る大切さについて話がありました。

体力に自信のある参加者はダムの中を見学し、保護者の方が疲れた様子でした。その後参加者は目名川に移動し、早速溪流釣りを楽しめました。餌のぶどう虫を針に付けるのに悪戦苦闘している姿も見られましたが、イワナやニジマスなど



溪流釣りに一生けん命!!



「この花の名前、知っている人?」

を次々と釣り上げ歓声を上げていました。

昼食には、ジンギスカンが用意され、初夏の風を肌で感じながら美味しそうに食べていました。

今年も天候に恵まれ、参加者は初夏の自然を満喫した一日となりました。

芸術鑑賞事業 「ガラクタ音楽会開催」

上ノ国町芸術鑑賞事業として、7月9日（火）「ともものガラクタ音楽会」を上ノ国小学校で開催しました。

会場には保育所の年長さんをはじめ、町内の小学生が多数詰めかけました。始まる前から珍しいガラクタの打楽器に興味津々の様子でした。

主催者挨拶の後、控室から登場した「ともも」は、頭に一斗缶をくり抜いたものをすっぽりかぶり、両足には同じく一斗缶を半分にしたもの履き、胸元には鐘や太鼓を身につけ、テンポのよいリズムで颯爽と登場すると、会場内は一斉に笑いと驚きに包まれ、あつという間に子どもたちは釘付けになってしまいました。

そのあと、様々な廃品を再利用して創り出した打楽器から奏でる音を披露してくれました。最後は、子どもたちが事前に作ったベツカーで、とももの後についてリズムを取り、ドレミの歌を歌って楽しい一時をすごしました。



みんなてたのしく
ベッカーで音出し?



「ともとも」の登場で
大歓声!!

参加した子どもたちは、口々に「全部おもしろかった」「新聞紙を使って音を作りながらリズムを取るのが、とても楽しかった」などの感想を述べていました。

上中1年生対象にブック トークと読み聞かせを実施

7月18日（木）、上ノ国町読書活動推進の一環として、ぼりんの室谷氏と、もこもこの北島氏の両氏が上ノ国中学校一年生を対象にブックトークと絵本の読み聞かせを実施しました。A



手にとって読んで
みてください



思わず笑みがこぼれる

組が「私の好きな児童文学」、B組が「長谷川よしふみの絵本の世界」とそれぞれテーマを設け、本の楽しさを分かりやすく話してくれました。「中学生なのに何で絵本?と思うかもしれないが、絵本は短い言葉の中に作者の願いがこめられている」と訴え、生徒たちも真剣なまなざしで、時には笑みもこぼれたり良い経験になったようです。

ある女生徒は以前読んだ本も紹介されすごく楽しかったと感想を述べていました。